



その人らしく、安心して
過ごしていただくために

身体的拘束(抑制)を 行わない方針について

当院では、患者様の「尊厳」と「自分らしい生活」を守るため、原則としてお身体を縛るなどの身体的拘束(抑制)を行わない方針をとっております。



1 なぜ「抑制をしない」ことを大切にするのか

お身体を自由に動かせない状態(抑制)が続くと、以下のような心身への大きな悪影響があるためです。

心への影響

自由を奪われることで、
気力の低下や
自尊心の傷つきを
招きます。



認知面への影響

強い不安やストレスから、
せん妄(一時的な混乱)を
引き起こしたり、認知症の
症状を進行させたりする
原因になります。



体への影響

動かないことで
筋力が急激に衰え、
かえって歩けなく
なってしまうリスクが
高まります。



2 抑制をしないことによる「リスク」と「お願い」

抑制をしないことは、一方で以下のような事故が起こる可能性も伴います。

ベッドや車椅子からの
転落・転倒による
怪我や骨折。



治療に必要な点滴や
チューブ類を抜いて
しまうこと。



ご自身の状況が
わからず、他の方との
トラブルに繋がること。



病院として、手すりの工夫や見守りなど、可能な限りの安全対策を講じております。
しかし、「すべての事故を完全に防ぐことは難しい」のが現状です。



3 ご家族へのお願い

私たちは、抑制という手段に頼らず、
お一人おひとりの個性を尊重した
ケアを実践したいと考えております。



万が一の転倒などの
リスクについて、
十分にご理解を
いただいた上での
入院をお願いして
おります。



抑制の代わりとなる
安全対策を行う
場合がございます。
(例) ベッド柵の工夫、
見守りの強化、環境の調整、
センサーマットの使用 など



患者様が安心して
元の生活に戻れるよう、
ご家族と病院が
手を取り合って
進んでいければ
幸いです。